

京都府教育委員会
教育長 小田垣 勉 様

府立鴨沂高校夜間定時制の募集停止を取りやめ、定時制・通信制教育の充実を求める申し入れ

2015年8月19日
日本共産党京都府議会議員団
団長 前窪 義由紀

1. 鴨沂高校夜間定時制の募集停止を取りやめること

京都府教育委員会は、鴨沂高校夜間定時制の募集を来春から停止する方向で検討し、8月21日の定例教育委員会で決定するとしている。その理由に、2015年度の募集定員を前年度の90人から30人と大きく減らしたが、入学者は14人で定員を下回り、鴨沂高校夜間定時制で学びたいという生徒のニーズが少ないこと、昼間定時制の府立清明高校を今春に開校したことなどをあげている。

しかし、中学校卒業生が減少するもとでも京都市内夜間定時制の志願者は300名を超える水準で推移していることから、一概に「ニーズが少ない」と断定することはできない。にもかかわらず、鴨沂高校夜間定時制の募集定員を大幅に減らしてきた(2012年度120人、2013年度・2014年度90人、2015年度30人)教育委員会の責任は重大である。

また、今春開校した清明高校では、166名が不合格となり、希望する学校に入学することができなかった。その清明高校の開校を理由に鴨沂高校夜間定時制の募集を停止することは許されない。

さらに、定時制をめぐるのは、京都市教育委員会が2019年度に西京高校夜間定時制と伏見工業高校夜間定時制を新設定時制単独高校に再編・統合するとしており、JR京都駅以北では夜間定時制が朱雀高校1校となり、教育の機会均等を脅かす事態ともなる。

夜間定時制では、就学支援金をほぼ全員が受給している。そして、多様な学びの動機や学習歴を有し、「学び直し」を求める生徒などの学習保障を担っている。子どもの貧困対策法の具体化が求められているにもかかわらず、夜間定時制の定員を狭め、少人数による教育を保障する条件を奪うことは、極めて重大である。

よって、鴨沂高校夜間定時制の募集定員を今年度60人も減らして30人とし、わずか1年で募集停止することは到底認められない。募集停止の取りやめを求めるものである。

2. 教育委員会の責務を果たすため、定時制・通信制教育の充実をはかること

今日、国民的教育の場としての高校教育を発展させていくことが求められている。そのためには、①どこの高校に行っても格差のない豊かな教育が受けられるようにすること、②高校で学ぼうという意志のある生徒を可能な限り受け入れていく方向で、公立高校の募集定員を確保し収容率を引き上げること③公立高校における教育条件の学校間格差を広

げるのではなく、経済的理由や居住地域の違いによって教育を受ける機会に格差が生じないよう是正することが必要である。

とりわけ、定時制・通信制教育がもつ生徒の学習を保障する場としての今日的な役割をふまえ、学級定員の引き下げ、教職員配置の改善、スクールソーシャルワーカーの配置拡充など、定時制・通信制教育の充実を求めるものである。

以上